

■リハビリテーション科

1. 2020年度の目標及び方針

1) リハビリテーション科専門医養成

当院のリハビリテーション科は、日本リハビリテーション医学会の専門医研修プログラムの基幹病院となっている。民間病院が基幹となっているプログラムは数少ない。この特徴を生かして、今後も専攻医の募集を行うこととする。

2) 関連事業所の診療品質改善

亀田森の里病院などの関連事業所においても亀田総合病院と同様のリハビリテーション診療を提供できるような品質改善を行う。これにより地域で選ばれる病院をめざし、病床稼働の改善を進める。太陽会関連事業所についても同様の活動を行う。

3) タスクシフティング

リハビリテーション科医師の求人倍率は非常に高く、全国的に不足している。今後も関連事業所の全てにリハビリテーション科医を配置することは困難である。リハビリテーション科医の業務をサポートできる診療能力を持つ療法士の育成計画を進める。

2. 2019年度評価

1) リハビリテーション科専門医養成

リハビリテーション科は新専門医制度における基本領域に設定されている。千葉県は特にリハビリテーション科専門医が不足している地域であり、地域の専門医を育成することが急務の課題である。継続的に専攻医の募集を行うこととする。今年度は専攻医の採用はなかったが、次年度に向けての見学は問い合わせが数件ある状況である。

2) 関連事業所の診療品質改善

亀田森の里病院においても亀田総合病院と同様のリハビリテーション診療を提供できるような品質改善を行う。リハビリテーション科指導医が月に1回程度訪問し、現地の療法士指導などを行った。

3) タスクシフティング

リハビリテーション科医師は求人倍率が最大となっており、全国的に不足している。今後も関連事業所の全てにリハビリテーション科医を配置することは困難である。リハビリテーション科医の業務をサポートできる診療能力を持つ療法士の育成を継続的に実施した。

3. リハビリテーション科の業務紹介やスタッフ数など

1)業務紹介

総合病院では急性期リハ、回復期リハとして亀田リハビリテーション病院、維持期リハとして亀田クリニックで機能分担をしている。急性期リハでは発症早期から療法士が介入することで最大限の機能回復を引き出し、合併症の予防を行う。急性期を乗り切った患者さまおよび御家族の心配されることは、退院後どのような生活ができるかということである。科学的根拠に基づく予後予測をし、それによる訓練プログラムを作成し、ゴール設定をする必要がある。回復期リハでは設定されたゴール目標に向けてリハビリを継続し、患者さまに安全な生活を送って頂けるよう最終調整を行う。慢性期の患者さまでは、獲得された機能を低下させないよう、適切な維持期リハ

が必要となる。リハビリテーションは患者さまを中心とし、多職種によるチームアプローチが必要となる。さらにリハの対象となる症例では重度の疾患を持っていることが多く、合併症のリスクも低くはない。これらを管理するのがリハビリテーション科医師の主たる業務となる。

2) スタッフ紹介

宮越浩一（リハビリテーション科部長）：1996年岡山大学医学部卒業、日本リハビリテーション医学会指導責任者・専門医・認定臨床医、日本整形外科学会専門医・認定脊椎脊髄病医、日本臨床栄養代謝学会認定医

日本リハビリテーション医学会代議員、日本リハビリテーション医学会診療ガイドライン委員会副委員長、日本リハビリテーション医学会社会保険等委員会委員、日本がんリハビリテーション研究会理事、千葉県NSTネットワーク世話人

小山照幸（リハビリテーション科部長、亀田リハビリテーション病院副院長）：1985年聖マリアンナ医科大学医学部卒業、日本リハビリテーション医学会指導責任者・専門医、日本心臓リハビリテーション学会認定指導士、日本外科学会認定登録医

日本リハビリテーション医学会社会保険等委員会委員、日本リハビリテーション医学会試験委員

井合茂夫（亀田リハビリテーション病院・病院長）：1979年東京大学医学部卒業、日本リハビリテーション医学会認定臨床医

桂井隆明（リハビリテーション科医長）：2010年群馬大学医学部卒業、日本リハビリテーション医学会専門医、日本内科学会認定内科医

佐田七海子（リハビリテーション科医長）2006年大阪市立大学医学部卒業、日本リハビリテーション医学会専門医

佐藤謙（リハビリテーション科専攻医）：2007年岩手医科大学卒業、日本内科学会総合内科専門医、日本糖尿病学会専門医、日本老年病学会専門医

小川斉宏（リハビリテーション科専攻医）：2007年慶應義塾大学医学部卒業

小澤里恵（リハビリテーション科専攻医）：2016年千葉大学医学部卒業

小川尋海（リハビリテーション科専攻医）：2017年埼玉医科大学医学部卒業

4. 年間活動内容と実績など

1) 亀田総合病院リハビリテーション部門の診療管理

総合病院における中央診療部門管理を行っている。リハビリテーションの対象となる患者さまのリハビリプログラム作成（ゴール設定やリスク管理）、経過のフォロー、嚥下障害、高次脳機能障害などのコンサルテーションを行っている。療法士数、リハ処方件数などはリハビリテーション事業管理部の統計を参照。

2) 亀田クリニック外来

外来は火曜日、木曜日、金曜日、土曜日に開設している。主として亀田リハビリテーション病院・総合病院退院後の脳卒中や脊髄疾患の患者さまのフォローを中心としている。その他に高次脳機能障害や嚥下障害などの障害をもつ患者さまの外来加療も行っている。他地域からのセカンドオピニオン目的の受診もある。

2) 亀田リハビリテーション病院

56床の病床を持つ回復期リハビリテーション病院が開設されている。当科医師により入院患者様

の受け持ちなど診療体制の支援を行っている。

5. 学術関係

書籍

宮越浩一（編集）：リハに役立つ治療薬の知識とリスク管理、羊土社、2019年9月

宮越浩一（編集）：リハビリテーションリスク管理ハンドブック、メジカルビュー社、2020年3月

総説

小山 照幸：リハビリテーション医療・介護連携 急性期病院： 総合リハビリテーション 47 巻 4 号
Page313-317(2019.04)

小山 照幸：心臓リハビリテーション 患者別のシミュレーションで考える治療戦略 治す 大動脈
疾患のリハビリテーション： Heart View 23 巻 5 号 Page509-514(2019.05)

小山 照幸：板橋区の保険診療におけるリハビリテーションの実状： 板橋区医師会医学会誌 23 巻
Page238-240(2019.07)

小山 照幸：心臓先端治療と心臓リハビリテーション MitraClip と心臓リハビリテーション： The
Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 56 巻 12 号 Page1009-1014(2019.12)

宮越浩一：リハビリテーション医療におけるリスクマネジメント. The Japanese Journal of
Rehabilitation Medicine57 巻 2 号 Page167-173(2020.02)

宮越浩一：脳腫瘍 緩和ケアとリハビリテーション医療. The Japanese Journal of Rehabilitation
Medicine 56 巻 8 号 Page645-649(2019.08)

学会発表

小山 照幸：東京都における病院勤務療法士数の現状. 第 56 回日本リハビリテーション医学会学術集
会、神戸市、2019 年 6 月 12 日

小山 照幸：保険診療におけるリハビリテーション関連医療費の動向. 第 56 回日本リハビリテーショ
ン医学会学術集会、神戸市、2019 年 6 月 12 日

小山 照幸：骨関節疾患手術患者の心疾患合併について. 第 56 回日本リハビリテーション医学会学術
集会、神戸市、2019 年 6 月 12 日

小山照幸：リハビリテーション関連医療費の動向. 第 71 回日本リハビリテーション医学会関東地方
会学術集会. 東京都、2019 年 9 月 29 日

小山照幸：開心術後に肺炎、腸管虚血、腎不全を合併し、嚥下障害、消化吸収障害をきたしたが、経
口摂取可能となり家庭復帰した 1 例. 第 72 回日本リハビリテーション医学会関東地方会学術集会.
さいたま市、2020 年 2 月 9 日

小山照幸：AVR、MAP、TAP 術後に、肺炎、腸管虚血、腎不全を合併し、嚥下障害、消化吸収障害をき
たしたが、経口摂取可能となった 1 例. 第 182 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 東京都、2020
年 3 月 7 日

小山照幸、宮越浩一、小柴輝晃、鈴木 智、長岡可楠子：当センター腎臓高血圧内科入院患者のリハビ
リテーション. 第 10 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会. 東京都、2020 年 3 月 17, 18 日

佐田七海子：回復期リハビリテーション病院入院中に治療抵抗性高血圧に至り、原発性アルドステロ
ン症の診断を得た 1 症例. 第 3 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会、静岡市、2019 年 11

月 15 日

小川齊宏：10 市区町における訪問リハビリテーション・通所リハビリテーションを受ける患者の特性とその時系列的变化. 第 56 回日本リハビリテーション医学会学術集会、神戸市、2019 年 6 月 12 日

佐藤謙：回復期リハビリテーション病棟に入院された肥満脳卒中患者の特徴. 第 56 回日本リハビリテーション医学会学術集会、神戸市、2019 年 6 月 12 日

佐田七海子：リハビリテーション病院の骨折患者に骨粗鬆症診療 checklist を用いた治療介入効果を測定する前後比較研究 DECOFRAC 最終報告. 第 56 回日本リハビリテーション医学会学術集会、神戸市、2019 年 6 月 12 日

宮越浩一：患者に影響を与える転倒転落事故を予測する因子. 第 21 回日本医療マネジメント学会学術総会、名古屋市、2019 年 7 月 19 日

宮越浩一：がん時代の運動器医療 がん患者のロコモ予防 (シンポジウム). 第 31 回日本運動器学会、岡山市、2019 年 7 月 6 日

宮越浩一：周術期の多職種連携 周術期のリハビリテーションと多職種連携 (シンポジウム). 第 44 回日本外科系連合学会学術集会、金沢市、2019 年 6 月 19 日

宮越浩一：急性期リハビリテーションで困ることとその対処 回転の速い急性期病棟で、対象患者数が多いという課題 (シンポジウム). 第 3 回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会、静岡市、2019 年 11 月 15 日

Koichi Miyakoshi: Impact of nutritional status on discharge destination in older hospitalized patients. European society for Clinical Nutrition and Metabolism, Sep2 2019, Krakow Poland

院外講演

宮越浩一：これだけは押さえておきたい、リハビリテーション医療のリスクマネジメント (教育講演). 第 56 回日本リハビリテーション医学会学術集会、神戸市、2019 年 6 月 12 日

宮越浩一：康复治疗中的危険性管理. 湖北省予防医学会、湖北省武漢市、2019 年 10 月 13 日

宮越浩一：康复治疗中的危険性管理. 脳卒中康复新技术学习班、福建省泉州市、2020 年 1 月 11 日

文責：宮越浩一